

[成果情報名] 花芽接ぎによるニホンナシの収量確保

[要約] 不時開花などで花芽が著しく不足した樹に同品種の腋花芽を2月中旬に接ぎ木すると開花、結実し、花芽の不足を補い、収量の確保が可能である。結実した果実は大きく、糖度やpHは平年と同等である。

[キーワード] ニホンナシ、腋花芽、花芽接ぎ、収量

[担当] 長崎果樹試・生産技術科

[連絡先] 電話0957-55-8740、電子メールs26700@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

ニホンナシは秋季に台風などにより著しく落葉すると不時開花し、翌年の開花数が不足し、著しく収量が低下する。そこで不時開花した樹に長果枝の花芽を接ぎ木し、当年結実させ、果実品質などについて検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 花芽を形成した腋花芽を接ぎ木すると正常に開花、結実する（図1）。接ぎ木は2月中旬が適期で、時期が遅れると開花数、結実数は低下する（表1）。
2. 花芽接ぎした果実は無処理より大きい。著しく着果密度が低い樹では1花芽当たり2果着果させても無処理の果実より大きい。果形指数は果実重が大きいほど高い。果皮色や糖度、pHは花芽接ぎした果実と無処理に差はない。花芽接ぎした糖度やpHは平年値と同等である（表2）。
3. 穂木の直径が5～10mmであれば穂木の大きさと果実重に相関はない（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 着果量が3～5果/m²程度の着果密度における調査である。
2. 1穂当たり1花芽に調整した穂木を腹接ぎした結果である。

[具体的データ]

表1 幸水の接ぎ木の時期と開花率、開花数、結実率および結実数

接ぎ木時期 (月日)	開花率 ^z (%)	開花数 ^y (花/花そう)	開花日 ^x (月日)	結実率 ^z (%)	結実数 ^y (果/果そう)
2.15	91.2a ^w	6.0	4.2	64.4a	2.3a
2.27	74.1a	4.1	4.3	19.5b	2.1a
3.12	7.4b	3.1	4.10	3.0c	1.0b
無処理	95.0a	5.4	4.4	95.0d	2.0a

^z 開花、結実した接ぎ穂/接ぎ穂×100

^y 開花、結実した花そう、果そうの平均値

^x 花芽当たりの半数が開花した日

^w 異なる文字間にTukeyの多重検定で5%レベルで有意差有り

表2 幸水の花芽接ぎした果実の形質および品質

着果数 ^z	果実重 (g)	果形指数	果皮色 (カラ-チャート)	地色	果肉硬度 (kg)	糖度 (Brix)	pH	比重
1果	370.8a ^y	128.4	2.7	2.7	5.1	11.9	5.08	0.99
2果	340.2b	126.2	2.9	2.9	4.9	12.1	5.05	0.99
無処理 ^x	318.7c	121.8	3.0	3.0	5.2	12.2	5.13	1.01
平年値 ^w	331.5	123.7	-	-	-	12.1	5.23	-

^z 花芽当たりの着果数

^y 異なる文字間にTukeyの多重検定で5%レベルで有意差有り

^x 前年落葉後に開花しなかった横または下向きの花芽に結実した果実

^w 1986~2006年の平均値



図1 花芽接ぎにより開花した穂木

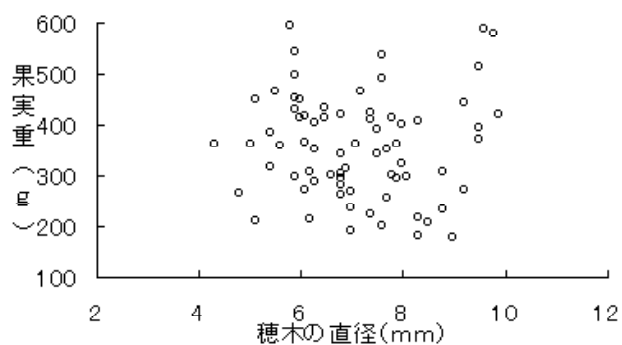


図2 穂木の直径と果実重の相関

[その他]

研究課題名：新整枝法による落葉果樹管理作業の軽労化と多収技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2005~2007年度

研究担当者：田中 実、林田誠剛、松浦 正